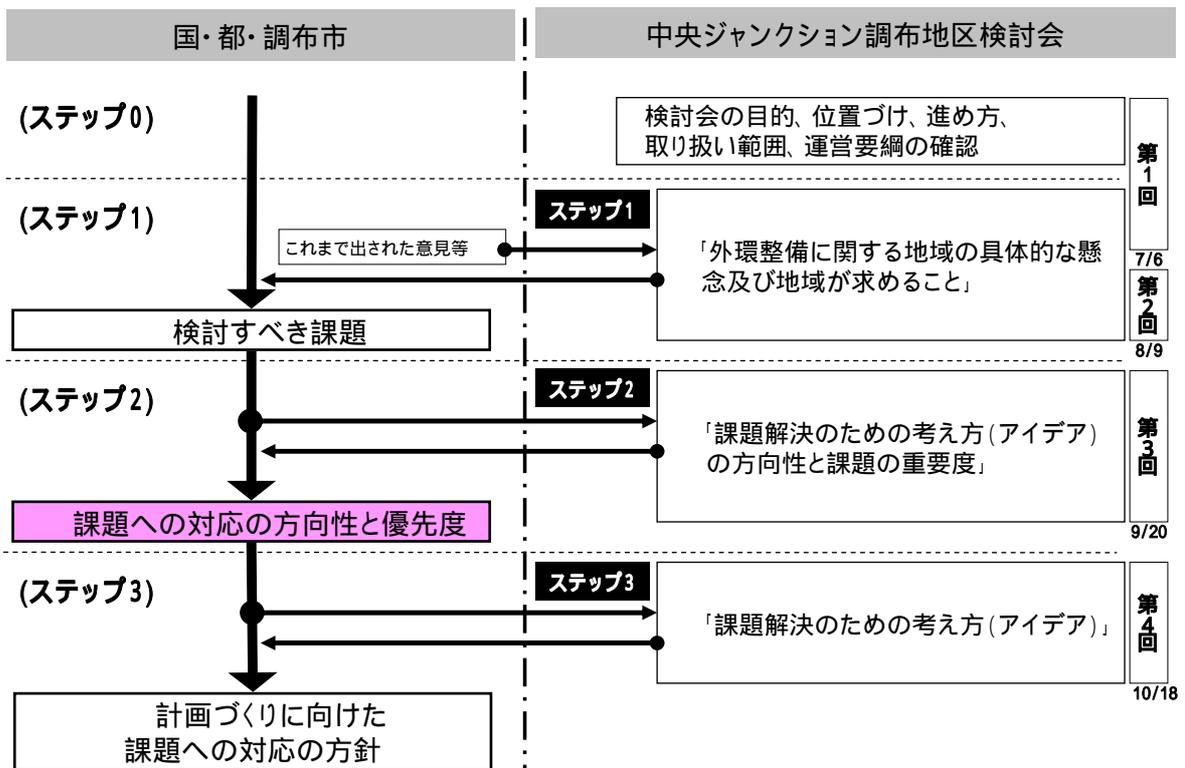


ステップ 2-2

課題への対応の方向性と優先度

- 外環計画が具体化した際の中央ジャンクション周辺地区における課題に対する対応の基本的な方向性と、課題対応の優先度(検討や対応をどの段階で実施するか)を整理したものです。





中央ジャンクション調布地区検討会

課題への対応の方向性と優先度

【本資料について】

- ・本資料は、外環計画が具体化した際の中央ジャンクション周辺地域における課題に対する対応の基本的な方向性と、課題対応の優先度(検討や対応をどの段階で実施するか)を整理したものです。
- ・中央ジャンクション調布地区検討会でステップ2の成果『課題解決のための考え方(アイデア)の方向性と課題の重要度』を受けて、主催者としての現時点での認識を示したものです。

中央ジャンクション調布地区検討会 主催者

(国土交通省・東京都・調布市)

中央ジャンクション調布地区検討会

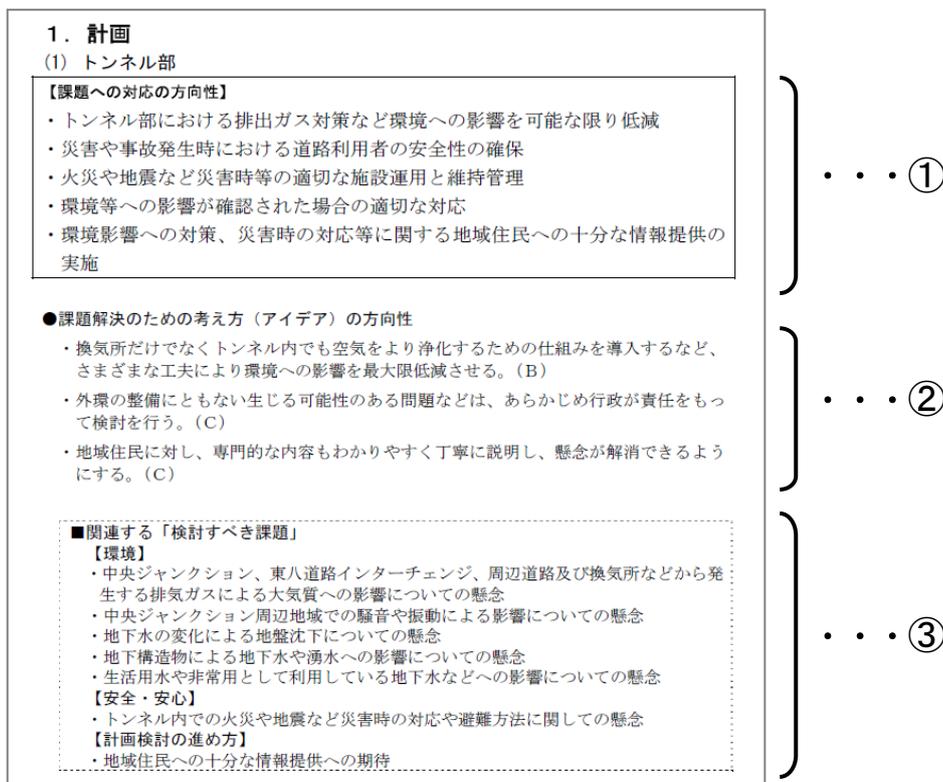
課題への対応の方向性と優先度 目次

本資料各項目の構成について

1. 計画	1
(1) トンネル部	
(2) ジャンクション部	
(3) 環境施設帯	
(4) 換気所	
(5) 周辺部	
(6) 三日月地域	
2. 調査	9
3. 工事	10
4. 管理	11
5. その他	12
(1) 用地・補償	
(2) 検討の進め方など	

本資料各項の構成について

本資料の各項目は、次の①～③の部分から構成しています。



①課題への対応の方向性

地区検討会のステップ1の主催者側の成果『検討すべき課題』(③)及びステップ2の検討会メンバーの成果『課題解決のための考え方（アイデア）の方向性と課題の重要度』(②)を踏まえて、計画の要素（対応の段階及び構造の位置）毎に、課題対応の基本的な方向性を主催者として整理したもの。

②課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

地区検討会のステップ2の成果『課題解決のための考え方（アイデア）の方向性と課題の重要度』から、計画の要素（対応の段階及び構造の位置）ごとに、各グループの「課題解決のための考え方（アイデア）の方向性」を引用したもの。末尾に（ ）でグループ名を付記しています。

③関連する「検討すべき課題」

各計画の要素（対応の段階及び構造の位置）ごとに、関連する「検討すべき課題」を列記したもの。

1. 計画

(1) トンネル部

【課題への対応の方向性】

- ・トンネル部における排出ガス対策など環境への影響を可能な限り低減
- ・災害や事故発生時における道路利用者の安全性の確保
- ・火災や地震など災害時等の適切な施設運用と維持管理
- ・環境等への影響が確認された場合の適切な対応
- ・環境影響への対策、災害時の対応等に関する地域住民への十分な情報提供の実施

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・換気所だけでなくトンネル内でも空気をより浄化するための仕組みを導入するなど、さまざまな工夫により環境への影響を最大限低減させる。(B)
- ・外環の整備にともない生じる可能性のある問題などは、あらかじめ行政が責任をもって検討を行う。(C)
- ・地域住民に対し、専門的な内容もわかりやすく丁寧に説明し、懸念が解消できるようにする。(C)
- ・外環本線の換気計画でどこから清浄空気を送り込み、どの範囲の汚れた空気を導くことができるかなど、トンネル内の総合的な気流のことを示した詳しい評価を示す。(E)

■関連する「検討すべき課題」

【環境】

- ・中央ジャンクション、東八道路インターチェンジ、周辺道路及び換気所などから発生する排気ガスによる大気質への影響についての懸念
- ・中央ジャンクション周辺地域での騒音や振動による影響についての懸念
- ・地下水の変化による地盤沈下についての懸念
- ・地下構造物による地下水や湧水への影響についての懸念
- ・生活用水や非常用として利用している地下水などへの影響についての懸念

【安全・安心】

- ・トンネル内での火災や地震など災害時の対応や避難方法についての懸念

【計画検討の進め方】

- ・地域住民への十分な情報提供への期待

(2) ジャンクション部

【課題への対応の方向性】

- ・生活道路などの移動の利便性の確保など、地域への影響が極力小さくなるようなジャンクション構造の詳細な検討の実施
- ・ジャンクションやトンネル坑口からの大気質、騒音、振動、低周波音、地盤沈下等の生活環境への影響の低減、ランプ合流部等における安全性の確保、ならびに周辺と調和した景観への配慮
- ・仙川の河川水や地下水、地域の緑地や樹林などの自然環境への影響の低減
- ・環境影響への対策、災害時の対応等に関する地域住民への十分な情報提供の実施

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・ETCを活用した出入口増設などによる渋滞緩和、大気への配慮などを行い、周辺地域の生活環境に与える影響の軽減や利便性の向上を図る。(A)
- ・防音壁の緑化などにより景観にも配慮する。(A)
- ・料金所のECT化やジャンクション部の蓋かけまたはドーム化など、中央ジャンクション開口部からの排出ガスの流出などを防止するさまざまな対策を検討・実施することにより、大気など環境への影響を最大限低減させる。(B)
- ・外環の利用者の交通安全上対策のひとつとして、ジャンクション構造（線形等）のシンプル化を図る(B)
- ・外環の整備にともない生じる可能性のある問題などは、あらかじめ行政が責任をもって検討を行う。(C)
- ・地域住民に対し、専門的な内容もわかりやすく丁寧に説明し、懸念が解消できるようにする。(C)
- ・中央ジャンクションの地下化や位置の変更など、周辺地域への影響を小さくすることに配慮して検討する。(C)
- ・吉祥寺通りなどの分断される主要な生活道路の機能を可能な限り回復できるよう、ジャンクションの構造について詳細な検討を行う。(D)
- ・ドームカバーの設置など掘割部の排出ガスの漏れ出しや工事中の騒音や振動、砂埃を防ぐ対策を検討する。(E)

■関連する「検討すべき課題」

【交通】

- ・生活道路を含めた地域の利便性が向上することへの期待

【環境】

- ・中央ジャンクション、東八道路インターチェンジ、周辺道路及び換気所などから発生する排気ガスによる大気質への影響についての懸念
- ・中央ジャンクション周辺地域での騒音や振動による影響についての懸念
- ・地下水の変化による地盤沈下についての懸念
- ・地下構造物による地下水や湧水への影響についての懸念

- ・生活用水や非常用として利用している地下水などへの影響についての懸念
- ・地域の植物への影響についての懸念

【まちづくり】

- ・緑ヶ丘地域コミュニティの分断への懸念
- ・吉祥寺通りが分断されて、歩行者やバスの利便性が低下するのではないかと懸念
- ・三日月地域内の生活道路の機能が確保されるのかとの懸念
- ・通学路が分断されるのではないかと懸念
- ・東八道路インターチェンジ周辺の開発による土地利用の変化についての懸念

【安全・安心】

- ・仙川沿いの道路などの生活道路の交通量が増え、交通事故が増加するのではないかと懸念
- ・ランプ合流部における交通の安全性についての懸念

【計画検討の進め方】

- ・地域住民への十分な情報提供への期待

(3) 環境施設帯

【課題への対応の方向性】

- ・ 環境施設帯を活用した生活道路等の代替機能の確保
- ・ 緑豊かで地域の快適性を高める空間の形成による生活環境の向上
- ・ 防犯などの安全性確保や地域住民と連携した適切な維持管理
- ・ 周辺区市と連携した交流・賑わい空間の創出に資する有効活用
- ・ 環境施設帯の緑地・施設の検討過程における地域住民の参画

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・ 空気の浄化に効果的な緑地整備や外環周辺の豊かな環境の創出につながるよう、環境施設帯の緑化を図る。(B)
- ・ 防犯などの安全確保に配慮しつつ、住民でも手入れしやすい緑地となるよう工夫する。(B)
- ・ 工事中および整備後の生活道路の機能確保も含めて、環境施設帯を地域の施設として期待できるよう詳細な検討を行う。(D)
- ・ 隣接する地域住民から提案できる機会を設けるなど、住民の意見を聴きながら進める。(D)
- ・ 適度な照明や監視カメラの設置に加え、有人の施設を配置して、人が行き交い、人の目が行き届いた安全な空間にする。(E)
- ・ 調布市、三鷹市、世田谷区の境界を取り払い、周辺住民や自治会の誰もが利用でき、交流やにぎわいが生まれる空間にする。(E)

■関連する「検討すべき課題」

【環境】

- ・ 中央ジャンクション、東八道路インターチェンジ、周辺道路及び換気所などから発生する排気ガスによる大気質への影響についての懸念
- ・ 中央ジャンクション周辺地域での騒音や振動による影響についての懸念
- ・ 地域の植物への影響についての懸念
- ・ 調布都市計画道路3・4・17号線の整備により仙川崖線緑地など地域の緑地が減少しないかとの懸念
- ・ 中央ジャンクションや東八道路インターチェンジの環境施設帯の緑地が確保されるのか懸念

【まちづくり】

- ・ 地域の人々が交流できる憩いの場の創出への期待
- ・ 三日月地域内の生活道路の機能が確保されるのかとの懸念
- ・ 通学路が分断されるのではないかとの懸念

【安全・安心】

- ・ 環境施設帯が人目の届かない空間となることによる治安悪化への懸念

【計画検討の進め方】

- ・ 地域住民への十分な情報提供への期待

(4) 換気所

【課題への対応の方向性】

- ・トンネル内を走行する自動車からの排出ガスを換気所で適切に処理
- ・換気所からの騒音、振動、低周波音などの生活環境への影響の低減
- ・火災や地震などの災害時等や故障時等を考慮した適切な施設運用と維持管理
- ・環境等への影響が確認された場合の適切な措置
- ・換気所の検討過程における地域住民への十分な情報提供

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・比較検討やシミュレーションを行うとともに、事例の見学などを行い、住民にとっても納得のいく検討を行う。（A）
- ・できるだけ着工に近い時点において、海外の事例を含むさまざまな最新技術を研究・採用するなど、排出ガスを効果的・効率的に処理し、大気への影響が極力小さくなるよう努める。（B）
- ・シミュレーションや絵を用いるなど、誰にでも理解しやすい説明を行うとともに、見学会を実施するなど、地域住民の理解を深める工夫をする。（C）
- ・排出ガスが拡散されて大気への影響がないよう、生活への悪影響に対する不安が解消できるような検討データの開示・提供を行う。（C）
- ・換気所を分散するなど、大気への影響が極力小さくなるよう検討する。（D）
- ・検討の過程では、タイプの異なる換気所の見学会や大気質、騒音、振動、高さ、トンネル内火災や事故時の排気処理などに関する具体的な情報の提供と説明を行うなど、地域住民の懸念が十分に払拭されるようにする。（D）

■関連する「検討すべき課題」

【環境】

- ・中央ジャンクション、東八道路インターチェンジ、周辺道路及び換気所などから発生する排気ガスによる大気質への影響についての懸念
- ・換気所の高さや性能についての懸念
- ・換気所の故障時の対応への懸念
- ・換気所から発生する騒音や振動、低周波音による影響についての懸念

【安全・安心】

- ・トンネル内での火災や地震など災害時の対応や避難方法についての懸念

【計画検討の進め方】

- ・地域住民への十分な情報提供への期待

(5) 周辺部

【課題への対応の方向性】

- ・ 周辺地域の都市計画道路や生活道路の機能確保
- ・ 生活道路などの交通量が増加した場合の交通混雑や住環境への影響に対する適切な対応
- ・ 地域コミュニティの分断の軽減やバスルートの維持・新設などによる移動の利便性の確保

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・ 外環の完成時に合わせて都市計画道路の整備を進めるなどにより、吉祥寺通りの機能確保や交通混雑の緩和を図る。（A）
- ・ バス路線の維持・新設や幹線道路の交通処理能力の向上、歩行者・自転車も利用しやすい充実した道路ネットワークの構築など、誰もが行きたいところに無理なく移動できるよう、周辺地域の交通利便性の向上を図る。また、地域に残された自然環境の保全に配慮して周辺の道路整備を行う。（B）
- ・ 地域ごとに課題を共有し、理解を深めたいうで、全地域住民の居住環境の維持・向上を目的とした計画づくり、まちづくりを進める。（C）
- ・ 外環整備と同時に都市計画道路などの整備を行うことにより、周辺の道路へ外環を利用する車が流入しないようにする。（C）
- ・ 東八道路 IC への交通集中を避けるために、道路整備以外の対策も講じる。（C）
- ・ 周辺の都市計画道路を外環の整備に先行して整備するなど、工事中を含め、生活道路への車両の流入を防ぐ。そのためには地区界が複雑なので、関係行政間で早期に調整する必要がある。（D）
- ・ 代替路を確保することで、分断される吉祥寺通りや生活道路の機能を維持する。（D）
- ・ 吉祥寺通りなどの幹線道路の機能を維持するとともに、生活道路への通過交通が発生しないように交通規制を行い、現状の生活環境を極力維持する。（E）
- ・ 幹線道路やジャンクションによる地域の分断を軽減し、向う三軒両隣のような近所づきあいが維持できるようにする。（E）
- ・ 工事中の地域分断や交通安全に配慮した交通計画や交通規制を検討し、工事業者との事前協議の取り決め内容の行政指導や監視を徹底する。（E）

■関連する「検討すべき課題」

【交通】

- ・生活道路を通り抜ける交通が増え、住宅街での渋滞の発生や住環境が悪化するのではないかとの懸念
- ・生活道路を含めた地域の利便性が向上することへの期待
- ・吉祥寺通りや東八道路、東八道路インターチェンジ周辺などの交通量が増加することによる道路混雑についての懸念
- ・周辺道路の整備が遅れた場合の交通処理についての懸念
- ・東八道路を中心とした周辺の道路網を早期に整備し、東八道路インターチェンジへの利便性を確保することへの期待

【環境】

- ・地域の植物への影響についての懸念
- ・調布都市計画道路3・4・17号線の整備により仙川崖線緑地など地域の緑地が減少しないかとの懸念
- ・中央ジャンクションや東八道路インターチェンジの環境施設帯の緑地が確保されるのか懸念

【まちづくり】

- ・地域の人交流できる憩いの場の創出への期待
- ・緑ヶ丘地域コミュニティの分断への懸念
- ・吉祥寺通りが分断されて、歩行者やバスの利便性が低下するのではないかとの懸念
- ・通学路が分断されるのではないかとの懸念
- ・東八道路インターチェンジ周辺の開発による土地利用の変化についての懸念

【安全・安心】

- ・仙川沿いの道路などの生活道路の交通量が増え、交通事故が増加するのではないかとの懸念
- ・周辺道路の整備における雨水処理に関する懸念

【計画検討の進め方】

- ・地域の意見を聴く相談窓口などの設置への期待
- ・地域住民への十分な情報提供への期待

(6) 三日月地域

【課題への対応の方向性】

- ・ 地域住民に対するきめ細やかな配慮と十分な情報提供
- ・ 周辺地域の都市計画道路や生活道路の機能確保
- ・ 生活道路などの交通量が増加した場合の交通混雑や交通安全への配慮
- ・ 地域コミュニティの分断の軽減、及び住環境への影響に対する適切な対応
- ・ 地域の安全性や利便性を高める場の創出による地域価値の向上

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・ 外環だけでなく周辺の既存施設もあわせて一体的な環境対策を行うことで環境負荷の軽減を図るとともに、交通・防災の拠点となる施設の立地などにより、地域住民へのメリットを考慮する。（A）
- ・ 三日月地域に即した課題の解決に向け、三日月地域の住民が主体となった検討を行っていく。（B）
- ・ 多大な影響を受ける三日月地域などは、安全な生活が維持できる交通規制対策を講じる。（C）
- ・ 外環整備に関するスケジュールや用地補償に関してわかりやすくまとめたパンフレットを作成し、高齢者や身障者世帯にも情報が行き渡るように配慮する。（D）
- ・ 個別相談窓口や電話窓口を設置することで、個別に対応した情報提供を行う。（D）

■関連する「検討すべき課題」

【交通】

- ・ 生活道路を通り抜ける交通が増え、住宅街での渋滞の発生や住環境が悪化するのではないかとの懸念
- ・ 生活道路を含めた地域の利便性が向上することへの期待
- ・ 周辺道路の整備が遅れた場合の交通処理についての懸念

【まちづくり】

- ・ 地域の人が交流できる憩いの場の創出への期待
- ・ 緑ヶ丘地域コミュニティの分断への懸念
- ・ 三日月地域内の生活道路の機能が確保されるのかとの懸念
- ・ 通学路が分断されるのではないかとの懸念

【安全・安心】

- ・ 仙川沿いの道路などの生活道路の交通量が増え、交通事故が増加するのではないかとの懸念

【計画検討の進め方】

- ・ 三日月地域の課題に真摯に取り組むことへの期待
- ・ 地域の意見を聴く相談窓口などの設置への期待
- ・ 地域住民への十分な情報提供への期待

2. 調査

【課題への対応の方向性】

- ・ 大気質、地下水、動植物等の影響の適切な把握と地域住民への情報提供
- ・ PM2.5やヒートアイランドなど環境基準に定められていない項目への対応

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・ 換気所だけではなく、ランプ部の排出ガスや既存施設の影響などを加えたデータによる大気への影響を分析し、住民にわかりやすい情報を提供する。(A)
- ・ 適切な地点における調査を通じて環境への影響を把握する。(C)
- ・ 周辺住民に対して先行事例の実績を示すことや、水脈や地下水の状態を、更に詳しく調べて、地下水流動保全工法の信頼性を高める。(E)
- ・ 換気所の性能評価基準に、世界的な環境基準であるPM2.5を追加採用する。(E)

■関連する「検討すべき課題」

【環境】

- ・ 中央ジャンクション、東八道路インターチェンジ、周辺道路及び換気所などから発生する排気ガスによる大気質への影響についての懸念
- ・ 換気所の高さや性能についての懸念
- ・ 換気所から発生する騒音や振動、低周波音による影響についての懸念
- ・ 中央ジャンクション周辺地域での騒音や振動による影響についての懸念
- ・ 地下水の変化による地盤沈下についての懸念
- ・ 地下構造物による地下水や湧水への影響についての懸念
- ・ 生活用水や非常用として利用している地下水などへの影響についての懸念
- ・ 地域の植物への影響についての懸念
- ・ 調布都市計画道路3・4・17号線の整備により仙川崖線緑地など地域の緑地が減少しないかとの懸念
- ・ PM2.5など現在の環境基準で定められていない項目についての懸念

【計画検討の進め方】

- ・ 環境影響に関する調査が不足しているのではないかとの懸念
- ・ 地域住民への十分な情報提供への期待

3. 工事

【課題への対応の方向性】

- ・ 工事にともなう大気質や騒音・振動、粉じんなどの生活環境、地下水や土壌などの自然環境への影響を低減
- ・ 工事車両の流入により低下が懸念される生活道路の機能や安全性の確保、交通の混雑の影響の低減
- ・ 計画的・段階的な工事実施による三日月地域へのアクセス性の確保
- ・ 工事の期間や工事車両に関する計画など工事内容等の十分な情報提供

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・ 外環の完成時に合わせて都市計画道路の整備を進めるなどにより、吉祥寺通りの機能確保や交通混雑の緩和を図る。（A）
- ・ 三日月地域が孤立しないように配慮し、特に工事段階では、計画的、段階的に工事を進め、常に三日月地域へのアクセス道路が確保されるように配慮する。（A）
- ・ 周辺の都市計画道路を外環の整備に先行して整備するなど、工事中を含め、生活道路への車両の流入を防ぐ。そのためには地区界が複雑なので、関係行政間で早期に調整する必要がある。（D）
- ・ 工事期間中は、工事車両の経路等の詳細を事前に広報する。（D）
- ・ 工事現場を囲む壁の高さや設置期間などをできるだけ早期に近隣住民に伝える。（D）
- ・ 開削部の工事過程で出る土砂を工事現場から出さないように検討することで、工事現場を出入りする土砂運搬の車両を少なくする。（E）
- ・ ドームカバーの設置など掘削部の排出ガスの漏れ出しや工事中の騒音や振動、砂埃を防ぐ対策を検討する。（E）
- ・ 仙川の上部空間の利用などによる工事中の地域分断の解消や、工事車両の振動対策を検討する。（E）

■関連する「検討すべき課題」

【工事中】

- ・ 生活道路に工事車両が流入することへの懸念
- ・ 三日月地域の生活道路や吉祥寺通りなどの工事期間中の交通機能の確保についての懸念
- ・ 工事に伴う大気質、騒音・振動、粉塵等による環境への影響に関する懸念
- ・ 工事に伴う日照・通風の影響に関する懸念
- ・ 工事に伴う地盤沈下に関する懸念
- ・ 仙川横断部の施工方法に関する懸念
- ・ 工事中における通学路や生活道路の安全性の確保についての懸念
- ・ 工事の安全対策に関する懸念

【計画検討の進め方】

- ・ 三日月地域の課題に真摯に取り組むことへの期待
- ・ 地域住民への十分な情報提供への期待

4. 管理

【課題への対応の方向性】

- ・大気質、地下水、動植物等の生態系などの適切なモニタリングの実施およびモニタリング結果に基づく適切な対応
- ・環境等への影響が確認された場合の適切な措置

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・調査段階では問題がないと判断した事項であっても、完成後に問題が起こった際には速やかな対応を行う。（A）
- ・防犯などの安全確保に配慮しつつ、住民でも手入れしやすい緑地となるよう工夫する。（B）
- ・環境への影響の実測値が予測値よりも悪くなった場合において迅速かつ適切に対応を行う。（B）
- ・定点観測を行うことで、予測値の正確性を検証する。（E）
- ・換気所からの排出ガス濃度や風向きなどを電光掲示板やインターネットで公開する。（E）

■関連する「検討すべき課題」

【環境】

- ・換気所の故障時の対応への懸念
- ・環境施設帯など緑地の適切な管理がなされるかに関する懸念

5. その他

(1) 用地・補償

【課題への対応の方向性】

- ・用地等の補償に関し、地権者のニーズに応じた丁寧な対応と十分な情報提供

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・用地補償の範囲を再検討し、複数案の提示や事業の早い段階からの対応など、住民に対する丁寧な情報提供や対応を行う。（A）
- ・用地補償については、一括買い取りによる集団移転も視野に入れ、住民の意向をくんだ、柔軟かつきめ細かな対応を行う。（A）
- ・外環の整備にともない健康被害を含めた環境の悪化が懸念されている三日月地域の集団移転が可能な救済措置など、コミュニティを維持することを重視した移転方法を検討する。（B）
- ・買収済み用地の工事前・工事中・工事後の土地利用についての適切な情報提供を事前に行う。（B）
- ・浅深度部分の住民への用地買収等に関する十分な情報提供のための広報の工夫とともに、生活再建救済制度の申し込み受けを再開する。（B）
- ・立ち退きと事業化の時期等について、事前に正確な情報提供とわかりやすい説明を地権者等に対して十分に行う。（B）
- ・移転や補償の対象となる住民の不安を払拭できるよう、行政側から積極的に情報を提供し、生活設計への支援を行う。（C）

■関連する「検討すべき課題」

【用地・補償】

- ・移転先の確保や補償などへの懸念
- ・地権者への用地補償についての分かりやすい説明や丁寧な対応がなされるのかとの懸念

(2) 検討の進め方など

【課題への対応の方向性】

- ・最新のデータ等を活用した適切な計画の検討
- ・最新技術の活用の検討
- ・これまで頂いた御意見などを踏まえた計画検討の実施
- ・今後の検討にあたり地域住民への十分な情報提供のうえ、適宜適切に意見をお聴きしながら検討

●課題解決のための考え方（アイデア）の方向性

- ・工事期間中及び整備後も含め、住民の不安が解消されるよう十分な情報提供を行う。
(A)
- ・地域住民もより主体的に真剣に外環の問題に対する対応に取り組む。(A)
- ・外環を検討するにあたり、検討会で出された意見も踏まえ、行政は住民との信頼関係を高めるよう配慮する。(A)
- ・高速道路の無料化などにより、地域住民へのメリットを考慮する。(A)
- ・工事を短期間に終了でき、生活への影響を極力小さくする施工技術や工事の方法を検討する。(A)
- ・今後の交通事情、経済状況の変化を見通し、最新かつ客観的なデータによる交通量の予測や計画の見直しを行う。(B)
- ・外環によって三日月地域などの中央ジャンクション周辺の地域が人の住みにくい生活環境になってしまうと予想される場合は、外環を建設しないという選択肢も含めて検討する。(B)
- ・地区検討会などの結果について、専門家を加えた会議を行うとともにその情報を提供しながら、事業実施段階も行政と地域住民による継続的な議論と、地域住民がチェックを行える機会を設ける。(B)
- ・地域住民の意見を十分に聴き、整備しないという選択肢も視野に入れながら検討する。
(C)
- ・検討会で出された意見も踏まえつつ、地域住民の不安が解消されるよう十分な検討や情報提供を行う。(C)
- ・自然災害時や環境への計画想定外の影響があった場合、誰がどのように対応、補償するのかについて明らかにする。(D)
- ・工事期間中において、地域の環境に与える影響について、どのような計画で行なったらどのような影響が出たかを、これまでの事例を用いて説明する。(D)
- ・場所ごとの騒音の影響を可視化した情報の提供、見学会の実施、地域の掲示板に事業計画等を掲示・更新するなど情報提供の方法の工夫を行い、住民に情報を周知する。
(D)
- ・三日月地域特有の課題の検討や住民の意見交換を行う。(D)
- ・住民に対して、他の工事が完了した場所での開通後の測定値と予測値の比較などを紹介することで、環境影響評価の予測値の信頼性を高める。(E)

- ・ 検討会の意向を踏まえて、環境影響などに関するより詳しい追加調査や検討を実施するとともに、その結果を伝わりやすい方法で公開する。(E)
- ・ 自治会などを通して、外環全体や周辺のアクセス道路の整備などに関するこれまでの取組みや整備の進捗状況、今後の見通しなどの情報を提供する。(E)
- ・ 生活道路の分断や通過交通、まちづくり用地の将来利用など、具体的な課題に対して、行政の対応方針を示す。(E)

■関連する「検討すべき課題」

【計画検討の進め方】

- ・ 人口動向等を踏まえた将来の交通需要に合った計画となっているのかとの懸念
- ・ 環境影響に関する調査が不足しているのではないのかとの懸念
- ・ 三日月地域の課題に真摯に取り組むことへの期待
- ・ 外環が早期に整備されることへの期待
- ・ 地区検討会での意見が計画に反映されるのかとの懸念
- ・ 市長の意見書等が尊重されるのかとの懸念
- ・ 地域の意見を聴く相談窓口などの設置への期待
- ・ 地域住民への十分な情報提供への期待